

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 213-0012

住 所 川崎市高津区坂戸3丁目2番1号KSP西405

氏 名 ケイエスピー熱供給株式会社

代表取締役社長 吉田 建志 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	ケイエスピー熱供給株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市高津区坂戸3丁目2番1号 KSP西405		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	35	熱供給業
主たる事業 の内容	熱供給事業法に基づいたかながわサイエンスパーク地域への熱供給		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,642	kl
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標排出量
排出量 ( t-CO2 )	(実) 729 (調) 678	(実) 687 (調) 636	(実) 586 (調) 534	(実) 586 (調) 572	(実) 707 (調) 657
削減率		(実) 5.8 % (調) 6.2 %	(実) 19.6 % (調) 21.2 %	(実) 19.6 % (調) 15.6 %	(実) 3.0 % (調) 3.1 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	販売熱量				原単位等の単位	t-CO2/GJ
	基準年度 ( 2018 年度)	第1年度 ( 2019 年度)	第2年度 ( 2020 年度)	第3年度 ( 2021 年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	0.01356	0.01287	0.01186	0.01188	0.01315	
活動量の値	53727.943	53346.352	49374.195	49296.937	-	
排出量原単位等の削減率		5.1 %	12.5 %	12.4 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	高効率機器の優先運転、配管まわりの保温強化、運転効率を向上させるための諸条件の変更、燃焼調整の実施、機器の整備など考えられうる対策をすべて行ったことにより温室効果ガスの削減及び原単位を向上させることができた。	
第2年度	需要家の熱負荷に変化があったほか、冷水製造を夜間にシフトさせることによって温室効果ガスの削減及び原単位を向上させることができた。	
第3年度	冷水製造を去年よりさらに夜間にシフトさせたほか、電気機器による温水製造量を増やし温室効果ガスの削減及び原単位向上に努めた。 排出量原単位の小さい冷水販売量が減り、排出量原単位の大きな温水販売量及び蒸気販売量が増加したことから第2年度ほど排出量原単位を削減することができなかった。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		目標の削減率3.0%に対し大きく上回る量を削減することができた。排出量原単位等の値の削減率が活動量の値の減少率を大きく下回っていることから、効果のある対策を行えたと評価する。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		運用による削減は難しくなっているが、今後もさらに効率的な運用を目指したい。機器更新時に今以上に省エネとなる機器構成にしていくなど、引き続き削減に努めたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高効率機器の優先運転</li> <li>②配管まわりの保温強化</li> <li>③プラント効率を上げる諸条件を探し運転効率を上げる</li> <li>④燃焼調整の実施</li> <li>⑤機器の整備</li> </ul>
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高効率機器の優先運転 ターボ冷凍機や、空冷式ヒートポンプの優先運転。</li> <li>②配管まわりの保温強化 蒸気ドレントラップ周辺配管の断熱塗料塗布。</li> <li>③プラント効率を上げる諸条件を探し運転効率を上げる 冷却水温度の調整。ターボ冷凍機の冷水出口温度及び流量調整。冷水往温度調整。</li> <li>④燃焼調整の実施 ボイラ及び直焚式吸収式冷凍機の燃焼調整。</li> <li>⑤機器の整備</li> </ul>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高効率機器の優先運転 ターボ冷凍機の優先運転。</li> <li>③プラント効率を上げる諸条件を探し運転効率を上げる 冷却水温度の調整。ターボ冷凍機の冷水出口温度及び流量調整。冷水往温度調整。INV最低周波数の調整。</li> <li>④燃焼調整の実施 ボイラの燃焼調整。</li> <li>⑤機器の整備</li> <li>⑥蓄熱槽の活用により、冷水製造を夜間製造へシフトした。(追加実施)</li> </ul>
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高効率機器の優先運転 ターボ冷凍機の優先運転。 空冷式ヒートポンプの優先運転。</li> <li>②配管まわりの保温強化 HEX-H2温水製造装置の保温材新調。</li> <li>③プラント効率を上げる諸条件を探し運転効率を上げる 冷却水温度の調整。 ターボ冷凍機の冷水出口温度及び流量調整。</li> <li>⑤機器の整備</li> <li>⑥蓄熱槽の活用により、冷水製造を夜間製造へシフトした。(追加実施)</li> </ul>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>運用の見直しや機器のこまめな整備など考える対策をすべて実施した。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	川崎市温暖化対策推進会議(ＣＣ川崎エコ会議)へ参加し、川崎市が取組む温暖化戦略(ＣＣかわさき)に役に立つことができるよう一員として貢献したい。
第1年度	川崎市温暖化対策推進会議(ＣＣ川崎エコ会議)へ参加し、川崎市が取組む温暖化戦略(ＣＣかわさき)に役に立つことができるようメールマガジンを社内で回覧した。
第2年度	川崎市温暖化対策推進会議(ＣＣ川崎エコ会議)へ参加し、川崎市が取組む温暖化戦略(ＣＣかわさき)に役に立つことができるようメールマガジンを社内で回覧した。
第3年度	川崎市温暖化対策推進会議(ＣＣ川崎エコ会議)へ参加し、川崎市が取組む温暖化戦略(ＣＣかわさき)に役に立つことができるようメールマガジンを社内で回覧した。

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	729 t-CO <sub>2</sub>	687 t-CO <sub>2</sub>	586 t-CO <sub>2</sub>	586 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	1,753 KL	1,690 KL	1,644 KL	1,642 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギーセンター	川崎市高津区坂戸3-2-1	729	687	586	586

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度